

## 座談会：コーナーストーンセンター

－ 学生サポーターを囲んで －

### 参加者

平本 美咲 (リベラルアーツ学群 3年)

松崎 有紀 (ビジネスマネジメント学群 2年)

三木 夏帆 (ビジネスマネジメント学群 3年)

古川 健二 (コーナーストーンセンター)

### 〈司会〉向井 一郎・紺野 馨

**司会** 今日は、コーナーストーンセンターで学生サポーターをされているお三方にお集まりいただきました、今回の「Obirin Today」に、大学の側からの学生サポーターの位置などについての記事もあるのですが、実際に学生サポーターをなさっている皆さんの側から、学生サポーターの仕事ってどんなものかお話しいただきたいと思います。それでは本題ですが、まず最初に学生サポーターとしてどんなことをサポートされているのか。統計を見てみると月100件とか相談に来られてますよね。それで、どんな人が相談に来られるのか、紹介をしていただいて皮切りにしたいと思います。それでは一番経験の長い三木さんからお願いします。



**三木** 学年としては、時期によっては一年生がすごく多いですけど、学群は全体的人数から全体的にLAが多いってこともありますけど、あまり偏りはないのかなと思います。春学期は特に新生が入る時間割の組み方であったり、卒業要件の単位のことであったりといったところでやってきますし、秋になれば4年生が単位が足りないといって、卒業する

にはとほんと切実に訴えてくることもあります。2年生、3年生なんかは専攻であったりゼミを決める時期になってくるので専攻をどちらにするか迷ってますとか、このコースはどういう授業？ どういう先生なのか、体験談を聞きにこられる学生さんもいます。

**司会** 今の三木さんのお話で、対象とか学生側のニーズはわかったのですが、そもそも学生サポーターは全体像からすれば何をされるどころだと説明すればこれを読まれる人にわ

かってもらえるでしょうか。

**三木** 相談を受けて、あくまでもこちら側はアドバイスという形で話をします。

**司会** その相談は、時間割の組み方とか、卒業要件とか、単位に関する事とか、学習に関係のことだけなんですか？

**三木** 単位に関する事は、学生側としてはお話できない部分もあるんですが、そういう100人いれば100通りの答えが出るアドバイスもあれば、それに、Aの501教室はどこですか？という施設案内も結構多いですね。他には、忘れものをしたんですけど届いていないですか？いえ届いていません、というような「地道」な案内もたくさんありますし……。

**司会** 皆が皆シリアスな相談じゃなくて……。

**三木** はい、全然そんなことはなくて、割と簡単に答えられることですね。

**司会** 例えば基盤教育というところで考えていくと、高校と大学ってぜんぜん違うじゃないですか。高校とやり方がちがうのに戸惑ってます、といった相談とかはあるんですか？時間割などもそんな中に入るんじゃないかと思いますが……。

**平本** 大学に入って一人暮らしを始めたから、話し相手がなくてと、言いながら長話をしていた人とかあります。

**司会** あ、そういう人もいますね。

**平本** それから、アルバイトは皆んなしなきゃいけないんですか？とか、サークルには入ったほうがいいですか？とか。そんなことを聞きにくる人もいます。

**司会** さっきは例えば単位のこととか卒業予定のこととかおっしゃったんですが、そこに先生も時間を決めて一緒に来られるんですよね。学生サポーターと一緒にコーナースターションセンターに教員の方がいらっしゃるということは……。

**古川** 去年度まではそういう形だったんですけど、今年はそういう状態ではありません。

**司会** それでは、今年は単位のことを訊かれたらどういう風にしてるんですか？

**三木** 例えば、単位のことを訊かれたら、この科目はどの単位にカウントされますかとかは学生側だけでは答えられないことになっているんですけど、一緒に卒業要件チェックシートを見ながらということでしたらお手伝いできるんですけど、最



(三木さん)

最終的に卒業に足りてないという判断はできないので、あくまでも一緒に数えるというお手伝いがサポートさんのやっтерことです。

**司会** そういうところは例えばアドバイザーの先生に相談したらとかというアドバイスもするんですね。

**三木** 教育支援課にいて相談してくださいとか……。

**司会** 逆に、今の一人暮らしとか、アルバイトをしたほうが、サークル、クラブに入ったほうがいいのかというのは皆さんの得意分野ですか？

**平本** あくまでも自分はこういう風にしてますが、まわりにはこういう人もいますとか、体験談じゃないけれど、個人の考えとしてしかアドバイスできないので、あとは自分で負担にならないかどうかとか好みに合わせて決めて下さいってことを言ってます。

**司会** そうすると例えば学生さんが相談に来た時に皆さんが自分の体験はこうだよと、必ずしもこうなさいってということじゃないんですね。相談にあたってとても大事にしていることとか、こういう風に接しようとか、気をつけていることってありますか？

**三木** 相談相手によって接し方を変えるというか、ほんとうに様々で、さっきのように話し相手がいなくて悩みがあって、単純に自分の話を聞いてほしいとかいう学生もいれば、ほんとに真剣に、進路について悩んでいて、同じ学群に所属している先輩の話を聞きたいといった学生などいろいろいるので、聞きたいという目的できた学生にはやはり自分の体験談を細かくリアルに話しますし、逆に自分の話を聞いて欲しいというタイプであれば、あまりこちらがいろいろ言ってもそれほど真剣に聞いていないということもあるので、あまりこちらからは反応しないということをしします。

**司会** ひたすら聞くことに徹する？

**三木** 相手がひたすら話しているということも多いので、あまり突っ込んだりとかはせずに、うんうんと聞いて、でも話の軌道修正をしないときもありますし、とりあえずその日のうちにその話はいったん終わってもらわないと帰ってもらえないので（笑）……。その相手がどういう反応するのかというのは少しずつ考えながら対応しています。

**司会** カウンセラー予備軍ですね。（笑）

**三木** いえいえ、できてるかできてないかはまた別の話ですけど。

**司会** そうするのは年数を重ねている人の方が上手にできるとか、そんな感じですか？

**松崎** 私はこの月から活動し始めたので、まだ一ヶ月経ってなくて、まだ相談を受けたことがないんです。でも施設案内はしたことがあるんですが、私でもわかってることなんですけど、説明するときには「これ、ほんとに合ってるよね」といった気持ちですごくとまどってしまって、いつも先輩方とかスタッフの方に再確認してしまうというか、そんなことがあります。

**司会** それは、ほんとうは知っているんだけどすごく焦って混乱してしまうのか、それとも自分が知っていることが本当かどうかというところに自信がなくなるのか、どんな感じなんですか？

**松崎** ダブルです。

**司会** 分かっているんだけど出てこないこともあるし、「これでよかったんだっけ？」といったところかな。その、松崎さんが相談を受けたことがないっていうのは、いつも複数の学生の人がいらっしゃるってことなんですか？ それともたまたま松崎さんがいるときにはそういう相談がこなかっただけなのか、例えば何人かいて今みたいな話を聞いてほしいというときには、高度なテクニックが必要な人は先輩に受け持ってもらおうとか、そんな感じですか？ たまたまっていうことですか？

**松崎** はい。

**司会** じゃ、いつくるかわからない。

**松崎** 一度一人相談に来たことがあるんですが、先輩の方において、先輩がアドバイスをしているのを聞いて、ああ、こういう風に対応したらいいのかなというのは勉強したことがあります。

**司会** 研修というか、最低限こういうことはやらなきゃだめよとか、こういうことに気をつけなきゃだめよといった話はあったんですか？

**松崎** そうしたことは決まった形でやるようにということはなかったんですが、ただ自分の経験を相手に押し付けるような言い方はしないようにしてねと先輩からは言われました。

**司会** 始めたのはこの月からなんですが、どうしてこれを始めようと思ったんですか？

**松崎** 1年生の頃は部活動に所属していて、「学校に貢献している」ってすごく感じてたんですけれど……。

**司会** 部活動を通じて貢献している？

**松崎** 桜美林大学の代表としてしていることに、誇りを持ってたという言い方は少し違うんですけど、自分の自信になってたんです。でも2年の前期で辞めて、それからなにもしていない期間に、サークルにも所属していないので、自分は本当に桜美林の学生なんだろうが、まあ、それほど深刻じゃないんですけど、桜美林にいるのなら何かしたいなと思っているときに見つけたのが学生サポーターの募集で、話を聞いてみたら、イベントなども開催することがあるっていうことで、それなら学校のためになにかできるんじゃないかと思って入りました。

**司会** すごいですね。ここにいるだけじゃなくて、やはり何かに関しても関わって貢献したいという気持ちがすごくあって……。平本さんはどういう動機で？ どれくらいの期間や

ってるんですか？

**平本** 私は2年生の春学期からサポーターとして活動していて……。

**司会** じゃ、1年半くらい。

**平本** そうですね。1年生の終わり頃にあった、高校生を対象にしたブリッジ・カレッジの時に、まだサポーターじゃなかったんですが、手伝いませんかって声をかけてもらってやってきたら、古川さんと松久保先生から、こんなプログラムがあるんですけどっていうお話を受けて。その時私も部活とかサークルとか何も所属していなくて、学校にきているだけというわけでもなく、それはそれで友達などもいて充実していたんですけど、所属している場所みたいなものが欲しいなって思ったのと、あまり新しいことに踏み込めないで、誘ってもらったチャンスは何か縁があるのかなって思ってやりたいなという気持ちになつたのと、学生サポーターの先輩方がいたんですが、みんなすごく仲が良くて、職員さんたちとも仲がよかったんです。すごくみんな一体としていい雰囲気だったので、この中に入ったら楽しいかもって思いました。

**司会** 三木さんの場合はどうなんですか？

**三木** 私は先生に薦められてという形でした。私の時は松崎さんのように公募ではなかったもので、先生方にお知らせが配られていて、私のアドバイザーの先生にもお知らせが行っていたらしくて……。私も部活もサークルもやっていなくて、先生のほうから三木さんは向いてると思うからやってみたらって薦められて……。私も何かに所属していたいという気持ちもあったり、家と授業の往復だけでは時間をもてあまして、充実感がなくて、何かやりたいなというところにその話をいただいて、やってみたいなと思ったのがきっかけです。

**司会** みなさん自分が貢献とか居場所とか少しずつ違った理由ですけど、サポーターをされてすごく充足している感じですか？ 例えば松崎さんはこのサポーターの仕事を通じて大学に貢献してるって気持ちを持っていますか？

**松崎** まだやってる期間が短いのでそこまで強くは感じないんですけど、一つ自分がやって嬉しかったことは、ツイッターに履修のことで分からない、自分が専攻しているコースを何単位とれているかわからない、成績表に載っているけれどどう見たらいいのか分からないというのがあったので、長文なんですけど返信したら、わあーすごい、ありがとうといた返事が何件かあったので、大学のことを勉強してよかったなあというのは、少しの期間ですけど、あります。

**司会** ごめんなさい。ツイッターって使っていないのでよくわからないんですが、あれってただ誰かがただ眩いているだけなんですよ？ 宛先ってないですよ。

**松崎** ないです。

**司会** つまりそういうのを見つけて、別に答えてくださいって言われているわけじゃないけど、答えたってということなんですね。

**松崎** 「誰か教えて」っていうふうに書いてあったんです。

**司会** 待ちの姿勢じゃなくて、そうやって困っている人を見つけたら自分で出ていけるようなところもあるんだなって思いました。すごくいいことですね。三木さんの場合には、どういうところが充実感っていう感じなんですか？

**三木** うーん、忙しい時って特にすごくうれしくて、暇なときは手持無沙汰でポカーンとしてしまうんですけど、サポーターも時期によってはイベントを企画したりするとすごく忙しかったりとか、何かポスターとかを作成するときも締め切りに向けてすごく忙しかったりしますが、そういう時に「じゃ、お願いね」って自分に任されて、その責任を負ってやってることなので、そういう時はすごく充実してますね。濃密な時間というか、私はすごく好きな時間です。

**司会** 普段自分の家と大学を往復してるだけだと、自分のために自分のことをやってるだけなんだけど、みんな世の中で役割りがあって、それを自分が担って、それをすごく頑張っているときすごく充実しているわけですね。

平本さんの場合はさっき「居場所」って言うてくれましたけど、サポーターの方は何人ぐらいみなさんでいらっしゃるんですか。

**平本** 今は6人。

**司会** 座ってる時間ってみんなまちまちじゃないですか。でも、みんなで集まることもあるんですか？

**平本** 新しいサポーターになってからはまだみんなで集まることはできてないんですが、前の年などは学校だけじゃなくて、一緒にご飯食べにいこうって、プライベートでも結構仲良くしてました。

**司会** 普段、例えばLAで同級生とか、たくさんいるじゃないですか。その子たちと一緒にいるのと、「サポーターの場」っていうところであらためてみんなと一緒に活動しているのでは自分のなかでどんな違いがありますか？



(平本さん)

**平本** 正直、あまり違いがなくて、先輩なんですけどお姉ちゃんみたいな感じだったりとか、どう表現していいかわからないんですが、友だちじゃないけど、なにかすごく居心地がいい感じがしてて、どちらがどうか、あまり比べられない感じですよ。

**司会** 自分の居場所があるって感じですね。例えば私は人としゃべるのがすごく苦手で、よくわかるんですけど、話し相手

が欲しいとか、アルバイトとか。昔は、皆さんのようなサポーターはいなかったのですが、今の皆さんの世代の学生のなかには友だちが作れなかったりとか、相談相手がいなかったりって、多いんでしょうか？

**三木** 桜美林大学じゃないんですけど、私の地元の友だちは結構友だちがいなくてという子が多くて、それで原因を訊いてみたら、SNSが普及しているんで、入学前から集まったり友だちがいるという子が多くて、SNSをやっていない子が全員友だちがいなくてとは限らないんですけど、やはり遅れちゃったというのがあるらしくて、そういうので友だちが作れないという子は多いと思います。

**司会** ヴァーチャルに友だちの人たちがこの大学に現実にやってきても友だちでいるっていう感じなんですか？ それとも、顔を合わせると知らん顔しているけど実はネットでは友だちみたいな、そんなことはないんですか？

**平本** 入学前に、「桜美林大学に行く人」というのが繋がりでネット上で知り合いになって、私のまわりにもいるんですけど、それで多分仲良くなって、で、実際大学に入ってから初めて仲良くなった子たちでずっと仲がいい友だちもいれば、ネット上ではリストに入っているけれどそんなに「主要」な友だちじゃないなといった人とか、様々です。

**司会** 昔はそもそも大学に来て顔を合わせるまでどんな人か良くわからなかったけど、今はネットで声を掛ければパーッと集まる、その一方でそういう所に入れない人もいます。そういう友だち関係の問題で相談に来る人が多いなって感じですか？

**三木** 多くないですね。本当に「直球」で、友だちいないのでどうしたらいいですかとか、友だちがいなくて話を聞いてくださいと言ってくる学生は私は会ったことがないんですけど、ただやはり話を聞いていると、特に一人暮らしの子とかはご家族とも一緒に住んでいないので、周りに発信する場がすごく少なくて、何悩んでいるのかも漠然としていて、でも何か話したくてっていうのが、話をしていく中で、こうなのかなって、本人は何も

そういう話はしてこないのでもこちらの見解ですけど、やはり聞いてると比較的パーッとしゃべる学生はそういうタイプが多いのかなって気はしていますね。

**司会** みなさんがいなければ、誰に話すのか、ちょっと困ったなあといった感じなんですね。

**三木** 先生に話すのと、同世代の学生に話すのとではやはり気持ちの持ちようも違うようで、同世代に話すことのほうがちょっとストレス発散というか。

**司会** アドヴァイザーの先生がいてもなかなかそこまで話しできないことを皆さんに気軽に話ができるという点はすごくいいのかもしれないですね。でも、そんななかで、聞いてみてちょっと困ったなあという……。

**三木** いくつか、あります。

**司会** 例えばどんなことですか？ 支障のない範囲で……。 (笑)

**三木** 話が終わらない！ 何人か来たことがあるんですけど、結構常連になるタイプがいて、私に対応していた子はすごく自分のやりたいことの興味がすごくたくさんあり過ぎて、どれから手をつけていいのかわからないというのと、自分のプライドも結構高いみたいで、周りは自分とはちょっと違うという目線で見たりだとか、家族に相談しても理解されない部分があったりとか、友人に話しても分かってもらえないところがあったりして、でも自分はこれだけやりたいことがあって、これだけ準備しているっていうお話をずっと、脈絡がないままとびとびで、さっきパソコンの話をしてたらまた趣味の話になって、いったりきたりで、次には課題はどうしたらいいんだという話になって、あっち行ったりこっちに行ったり。まとめ方が難しいのと、まあ永遠に終わらないんじゃないかという漠然とした不安もこっちにもあって。でも、やはり「じゃここで」ってブズッと切るわけにはいかないので、とりあえず明日提出の課題やったほうがいいんじゃないとか、それをやりたいんだったら詳しい人に聞いてみたらとか、悩むんだったら参加してみたらとか、そういう話を、長く話すと聞いていないので、ちょっとずつして、一言で帰して、っていう作戦です。

**司会** ただウンウンって聞いているだけじゃなくて、何か少しでも行動に移せるアドバイスを出すことに気をつけているんですね。

**三木** こちらが聞いているだけでいいっていうなら「うんうん」って聞いているんですけど、やはり反応しないと向こうも不安になるので、オウム返しじゃないですけど、単純に相槌を打って反応するのも一つですし、やはり学校生活に関しては多少アドバイスできることもあるので、そういったところは先輩としての体験として、こうしたら？ ああしたら？ っていう提案はしますし、その人のお家のこととか、個人の好みのこととかは、そうなんだ、って聞いてっていうやり方はその学生から学びました。



**司会** 三木さんはそういう会話の仕方というのは最初からそういうことができたんですか？ それともサポーターをやっていくなかで変わってきたんですか？

**三木** 私も入った時は松崎さんと同じで先輩の横で聞いているというところから勉強していった、徐々に徐々にシンプルなものから対応していった、特にこれを始めたからどうかということはないんですけど、でもやはり「聴く」ということは身についたかもしれないですね。最初からあったかという、きっとそんなことはないと思いますね。

**司会** これをやってからこそ聞く力が身についたのかな。

**三木** 最初よりはついたと思います。

**司会** 平本さんは何か困ったことってありました？

**平本** 困ったのがさっきの話相手がないというケースで、三木さんが対応した、自分はこういうことをしたいんだというふうに話してくれれば、じゃああすれば、こうすればとか言えるんですけど、いやあ、一人暮らし始めたばかりで話す人いないんですよえって言いながら、昨日あったこととか漠然と言われるとアドバイスのしょうがなくって、あ、そうなんですか、なんて……。こちらも長くなればなるほど、正直ちょっと退屈になってきちゃうんですよ。最初は、アーンって聞いてても、私じゃなくてもいいのになんて思っちゃったりします。切り上げるタイミングが見つからないというのが困りました。その人ひとりだったんですけど、まあ強烈だったなあっていう感想ですね。

**司会** 私じゃなくてもいいのに、でも相手は誰かに聞いて欲しくて平本さんに聞いて欲しいという感じなのかもしれませんね。なかなか難しいですね。でもそこは「忙しいですから」とか言わずに、できるだけ相手も傷つけないように話を終わらせようってことなんですね。

**平本** ほんとに忙しかったら忙しいって言えるんですけど、ぜったい「忙しくないじゃん」という状態の時だとほんとに何も言えないので。

**司会** その人、一回ですみました？

**平本** 一回ですみました。

**司会** それはラッキーだったかも。リピーターになっちゃりしたらねえ。

**平本** 学内で友達らしき人と歩いているのを見かけました。よかったのかなあと思いました。

**司会** 松崎さんはまだそんな人と接することがまだないわけですよ。先輩を見ててどういったところが一番難しそうだなあって感じますか？ あとは、自分にとってすごく難しそうなことってどんなことですかね。



(松崎さん)

**松崎** 平本さんがおっしゃった、一人暮らしだから喋る相手がいなくてという話なんですけど、私も今一人暮らしをしてて、実際そうなんです。家で喋る人がいないので、だからいつも一人暮らしの友達と会って、今日会ったことをペラペラ喋っているんですけど、確かに、それを聞くのも……、多分私がその

方のお相手をしたとしてもすごく疲れると思うんですけど、その子の気持ちもわかるので……。

**司会** そういう、相手の気持ちを察するとかというのは皆さんそれぞれが、このサポーターの仕事として大事にされているようなことなんですかね？

**三木** カウンセラーではないんですけど、やはり漠然としてても抽象的でも逆に具体的にでも、きっと何か悩みがあってくるので、友達であれば簡単にあしらったりできるかもしれないんですけど、やはり誰かしらに頼ってきていると思うので、そこはやはり無下にはできず、まあ聞くことでちょっと気持ちが軽くなるなっていうところは……。まあ、限度はありますけれど。こちら側の意識だけかもしれないですが、そこで役に立ててると思ったりするので、そこは話を聞くことでちょっと役に立つなって気持ちはあります。たとえ答えが出ないことであっても。

**司会** そういう気持ちにオン・オフはあるんですかね。つまり、サポーターとしている時は、この何か喋ってる人は問題抱えてるのかな、じゃ関わっていきこうという気持ちがあるって今聞かせてもらったんですが……。コーナーストーンを一步でるとそういう感じではなくて、友達に適当にあしらうとかという感じなのか、それともサポーターをやっていることを通じて人といろいろ関わるなかで、サポーターではない時の自分というのも変化したような気がしますか？ 例えば家族とか友達と話す時って、以前とは変わったなあという感じはありますか？

**平本** 私は塾でアルバイトをしているので、勉強を教えるだけじゃなくても、その子毎週くる度に状態が違うというのがなんとなくわかるんですね。来た時にちっと元気がなかったりとか、会話してて、やけにイライラしてるなどか、何かあるのかなというのが分かってきたので、逆にそれをコーナーストーンセンターにいる時にそれを活かしているという

か、人がいやな態度とかいろいろな状態があっても、それが「性格」じゃないというか、何か問題が一つある、何かモヤモヤしてたりとかするものがあるから出てきたものかなと考えながら、います。

**司会** 大学の中の仕組みで言うと、まあアドバイザーのところへ行ったら？ とか、保健センターの学生相談室へ行ったら？ とか学生部へ行ったら？ とか単純に振らないで、皆さんが一度受け止めるようにされている感じなんですか？

**三木** ここより詳しい説明ができる部署があればそちらを案内するんですけど、個人の悩みとなると、相談室を最終的に案内するケースもありますけれど、どこに行っても答えが出る悩みではないんだろうなという場合は、とりあえずは聞きますね。それでまた何かあったら来てくださいねとか、そういう話ならここでも聞いてもらえると思いますよとか。いきなり「この悩みはここだ」という振り分けはしてないかな？

**平本** よほどここじゃ解決できない用件があれば案内はしますけれど……。

**司会** まずは来た人に「人」として接して、そこからいろいろ聞いていくということなんですね。実感として「聞き役」というのが役割として大きいってということですか。ずっと聞くと、時々ストレス溜まりませんか？ 聞き役って一番難しいですよ。

**平本** さっき話した何時間かいたりする人はほんとに稀で、私も一回しか対応したことがなくて、多分三木さんもそんなにはないですよ。あとは、そんな感じになってしまったらまた職員さんのほうから「声を掛けて」とか助け舟を出してもらうこともありますから、そんなにストレスは感じてないですね。

**司会** いつも職員さんが横で見守ってくれているから安心感があるんですね。

**三木** さっきのオン・オフじゃないですけど、私は結構割り切っているほうで、仕事っていうと語弊がありますが、これが今やることって気持ちになるので、そうするともう聞くことだけに徹することができるので、すごく長いと退屈って気持ちにもなりますけれど、でもあそこにいると、今自分がやるべきことはこれって思うので、そういう切り替えはできますね。

**司会** 皆さん三人ともサポーターとして関わっててよかったなあって思いますか？ サポーターに関わったから自分のここが変わったとか、いろいろ影響があったとかということはありませんか？

**三木** シンプルに「聞く」ことができるようになったということがありますね。あとはたまに情報誌を作ったりすることがあったんですけど、パソコンでそういうものを作るっていうのはまったくやったことのないことだったんです。まったくやったことのないことをゼロからやるのは大変だったんですけど、意外とそういうことが好きという自分に気づいたりとか、やったことないから敬遠して、私には無理ですとか、そういう食わず嫌い

みたいなことをするのってすごくもったいなかったんだなっていうことに気づいたり。イベントをやることになっても実際に物事が動き出した時に、先輩を見て、やりたいと思って実行に移すってほんとうにできるんだってということとか、「やりたいねえー」で終わっちゃうと意味がないので、「やりたいね、じゃやろう」って行動に移す力って自分たちのやり方、努力次第ですごくいいものが出来上がったりしますよね。そういうことを通して、やろうと思ってやるってことはすごく大事で、やろうと思ったら出来るってことは、学生サポーターの先輩を見て私は学びました。そういうところはちょっと変わったのかと思います。

**司会** すごいですね。

**三木** 先輩がとてもすごかったのです。

**司会** 三木さん自身がそういうものを受けとめる力があつたし、それが人との話を聞いたりするなかで伸びたので、先輩のこともいろいろ受けとめられたのかなあって思いますね。平本さんは一年半続けてきてよかったなあというのはどんなところですか？

**三木** 彼女はやりがいを感じているらしいので……。

**平本** 今までの生活とはガラッと変わって、今までやらなかったことを毎日やっているので、これだけが変わったとかではなくて、いろいろあるんです。去年、イベントというほどじゃないんですけど自分が担当になって企画書を出すとかというのは、初めての体験だったし、あとは「ハンドブック」っていう学生サポーターで作っている冊子を先輩について副担当として一緒にやらせてもらったりとか、あとはブリッジ・カレッジで高校生とゲームなどをやるアクティビティを担当させてもらったりしました。アクティビティに関しては、人前に出るのは嫌だと思っていて、出来るわけないって思っていて、いやだなーってずっと思ってたんですけど、でも、教師になりたいという気持ちがあるので、やはり人前に出るのを嫌がるのは克服しなければいけないと思ったりとか、頑張るのがわりと好きで、やりだすと最後までやり切りたいという気持ちになるので、達成した時にやはりここに入ってよかったなって思いました。それで、今年の春に、恥ずかしいんですけど、やりがいを感じてきちゃったんです。

**司会** 人前でしゃべるのが嫌なんてウソでしょ、って感じですよ。

**平本** そんなに嫌いではないですよ、学級委員とかもやったりしてきたりとか、一発目にちょっと緊張しちゃって、発表とかするときも前に出ちゃえばやりきろうとなるんですけど、出るまでが、いやだなあーって、入試でもお腹が痛くなっちゃったりとか……。

**司会** それはノーマルですよ。教員も学期初めの授業に行くときは緊張して、帰っちゃおうかと思うくらいですからね（笑）。でもこちらは職業としてやっているのだから逃げるわけにはいかないけれど、皆さんはボランティアにやっているところがすごいですね。松崎

さんはまだ一ヶ月ですけど、今まで感じてきた「やってよかった」ということでもいいし、先輩たちを見て、自分はいくらでもこれをやっていきたいといったところは？

**松崎** やってよかったことなんですが、私はいつも計画を立てるのが好きなんです。英語の参考書を買って、よし毎日何頁、何日までに終わらせるって決めるんですけど、次の日からもうしなくなったりで。これまであまり一人で一つのことを終わらせたことがないんですよ。今回フリーペーパーを作る担当になって、実際に計画書を作ってみんなの前でこういう記事にしますって発表した時に、やはり一人じゃないので、多分やらなかったらお尻叩かれるし、そうことがあるので、絶対出来ると思うんですね、その情報誌が。多分出来た時には、ああやってよかったという気持ちになるし、今、まだ出来てないんですけど携われてよかったと思っています。

**司会** 最近思うのは、私たちに欠けているもの一つが、何かを成し遂げたとか、頑張ればうまくいくという成功体験とか、うまくできるという確信じゃないかということなんです。何かやり続けたら少し変わるんじゃないかとか、やり続けたら変わるという確信がみんな持てないから、別にいいやとか、やってもしょうがないと思ってしまうけど、皆さんは確信というか、やればできるぞとかいうのが皆さんのなかですごく変わったのかな。他人の話が聞けるし、やればできるって思えるって怖いもの何もないですよ。それでは、最後に後輩へのメッセージを、それではやはり三木さんをお願いしましょうか。学生アドバイザーになる人に限らず、次に桜美林大学に入ってくる後輩へのメッセージということでお願いします。

**三木** 4年通っているいろいろな人たちと友達になって話を聞いて一番思うのは、やはり自分の興味を実現させようと思って行動に移した人って、一番強いんですね。結果が失敗であろうと成功であろうと、そのプロセスで得るものが一番重要だと思うので、やりたかったなとか、やってみたいんだけど、と止まっている学生が一番多いと思うんですね。それはほんとうにもったいないと思いますし、時間も多少のお金の融通がきく大学生が一番チャンスの時期なので、もう思ったら動いてもらいたいという気持ちですごく大きいです。それは私が4年間で一番後悔していることなので、一年生であろうと何年生であろうと動けば遅くないので、ぜひやりたいと思ったことは行動に移して、そこから何かを得て、卒業を迎えてほしいなと思います。

**司会** 素晴らしいメッセージですね。それではみなさん今日は本当にありがとうございました。